

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2012年12月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、12月14日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「横這い圏内で推移している」としました。この基調判断は3か月連続となります。需要項目別にみると、個人消費（観光を含む）は持ち直しの動きが鈍化しています。大型店売上高は足もと降雪の遅れから冬物衣料等の出足が鈍く、弱めの動きとなりました。自動車販売はエコカー補助金終了後、横這い圏内の動きが続いています。観光は台湾等インバウンド観光客の増加を支えに、緩やかに持ち直しています。公共投資は下げ止まりつつあります。設備投資は下げ止まっています。住宅投資は、持ち直しの動きに一服感がみられています。この間、雇用情勢は労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は幾分弱めの動きとなっています。

12月短観結果をみると、業況判断 D.I.は建設等で悪化した結果、▲11%ポイントと、前回（9月短観）調査に比較し若干（2%ポイント）の悪化となりました。短観調査対象先における2012年度の売上げ、収益計画をみると、海外景気の減速に伴う製造業（電気機械）の減少を主因に減少しました。この間、全国（全規模・全産業）は▲9%ポイントと、前回調査に比較し3%ポイント悪化（大企業製造業は9%ポイントの大幅悪化）しました。内需産業のウエイトが高いという特徴から道北地域の業況判断 D.I.の悪化幅は全国に比較し小幅でしたが、当地の基幹産業である観光業は全国の景気動向の影響を受けるほか、公共投資については農業関連工事の発注が一段落したこともあって先行きを懸念する声が聞かれています。短観の業況判断 D.I.の先行き3月までの見通しが現状に比べ8%ポイント悪化するの、企業がこうした事情を織り込んでいるためと考えられます。このように、道北地域の景気の先行きについては懸念材料が少なくなく、不透明感が強い状況が続いています。

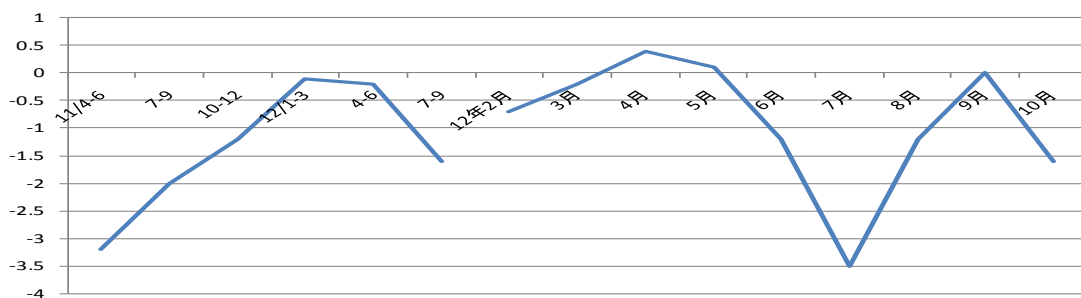
主な特徴点は下記の通りです。それ以外については、[金融経済概況](#)をご覧ください。

まず、個人消費（観光を含む）です。

10月の大型店売上高は、降雪の時期の遅れから冬物衣料や除雪器具、長靴などの出足が鈍かったこと等から弱めの動きとなりました。7～9月の△1.6%に続き、10月も△1.6%となりました。

【道北地域の大型店売上高推移】

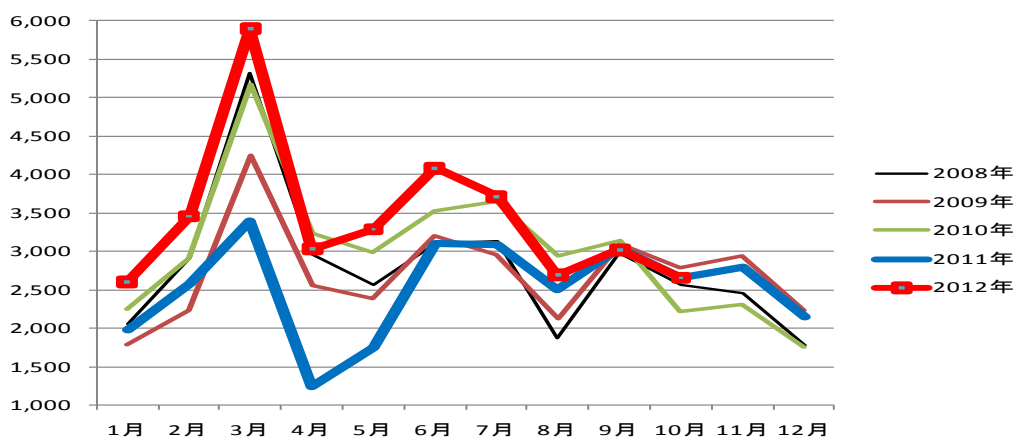
前年比・%



新車登録台数はエコカー補助金終了（9月21日交付申請受付分で終了）後、横這い圏内の動きとなっています。9月（△0.5%）、10月（△0.1%）と前年比はほぼゼロ近傍となり、11月も同様の模様です。政策効果は剥落しましたが、軽乗用車（10月は+4.3%）やハイブリッドカー等低燃費車人気販売を下支えしています。

【道北地域の新車登録台数推移】

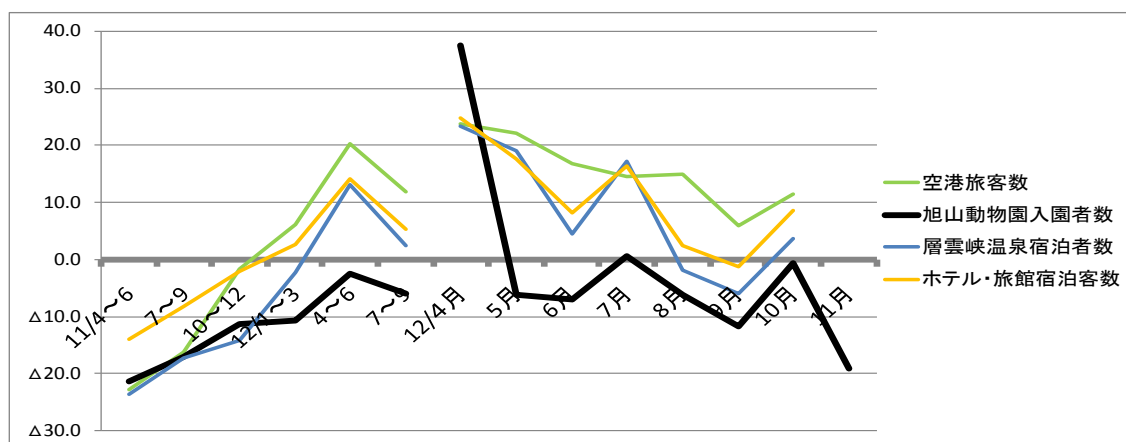
台



観光は2011年4～6月を底に緩やかに持ち直しています。9月は残暑の影響による紅葉の時期の遅れや色づきの悪さもあって層雲峡温泉宿泊者数が減少幅を拡大するなど、持ち直しのテンポは大きく鈍化しましたが、10月は旭川地区におけるイベント需要もあって、少し持ち直しています。この間、ホテル・旅館宿泊客数（ウトロ温泉地区、網走・温根湯地区、層雲峡・白金地区、利尻島地区）をみると、10月は4地区とも増加しました。11月の旭山動物園入園者数は大幅に減少しましたが、これは開園期間（1～3日および18～30日）中悪天候が続いた（開園期間中の一日当たりの平均日照時間は1.5時間で、ほとんどの日が雪または雨でした）ことによるものです。

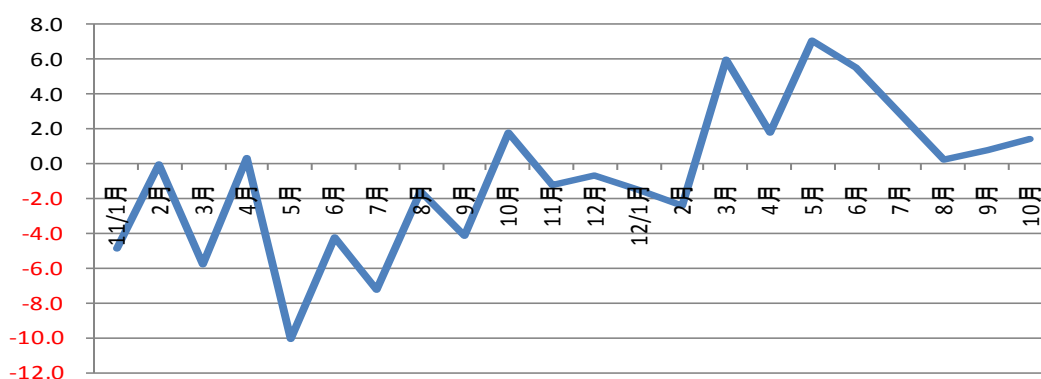
【道北地域の観光動向】

前年比・%



旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前年差推移をみると、下図の通り、3月以降、震災のあった前年を上回っています。改善幅は8月に一旦ゼロ近傍まで縮小した後、9月、10月はやや拡大しました。やや長い目でみると、昨年5月を底に、緩やかに回復してきていることがわかります。11月については、悪天候による旭山動物園の入園者数の減少という悪材料はあったものの、一部では「宿泊客は前年に比較し増加している」（旭川市内のホテル）との声も聞かれており、明暗が分かれつつも全体としては引続き持ち直し基調にある模様です。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前年差推移】 %ポイント



観光客別にみると、まずインバウンド観光客は増加しています。層雲峡地区や富良野・美瑛地区における10月の外国人宿泊者数をみると、下記の通り、震災のあった昨年よりも、一昨年水準も上回っています。マイクロヒアリングによれば、国別には中国は最近の日中関係の影響がみられていますが、主力の台湾が着実に増加しているほか、最近ではマレーシア、タイ等からの観光客も増加しているとのこと。

【層雲峡地区および富良野・美瑛地区における外国人宿泊者数推移】

(単位 人)

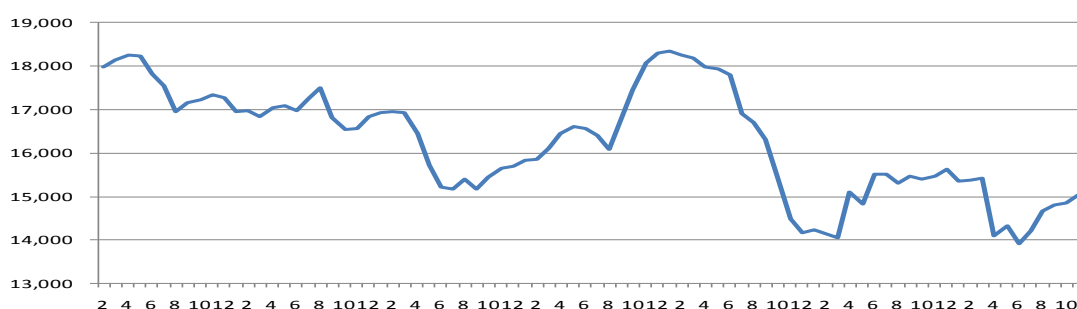
	2010年10月	2011年10月	2012年10月
層雲峡地区	8,147	8,890	11,559
富良野・美瑛地区	913	819	969
合計	9,060	9,709	12,528

(上川総合振興局調べ)

一方、国内(道内・道外)観光客については、残暑の影響による紅葉の時期の遅れや色づきの悪さが響き、この秋はとりわけ道内観光客の減少が目立ちました。また、東京スカイツリー人気の影響や道央道や道東道の整備進展に伴い道内の他地域に人気が集まっていることの影響を指摘する声も聞かれました。

公共投資は下げ止まりつつあります。10月の公共工事請負金額をみると、オホーツク総合振興局管内で平成24年度消防救急デジタル無線設備整備事業（600百万円）や北見地区消防組合消防救急デジタル無線施設整備工事（576百万円）があったことなどから、3総合振興局合計では5か月連続で増加しました（+19.4%）。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通りです。ただし、農業関連工事（農業体質強化基盤整備促進事業や区画整理事業）については発注が一段落したほか、降雨の影響等で着工時期が遅れ、すべての工事を完成させることができない可能性があるとの声が聞かれるなど、厳しい状況が続いています。

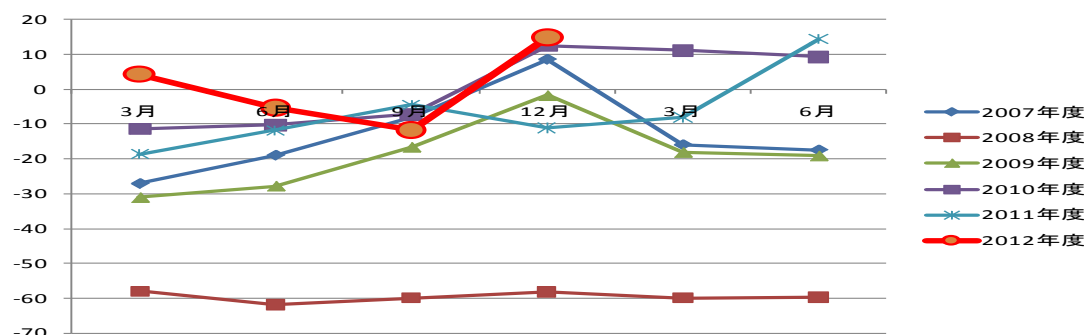
【道北地域の公共工事請負金額推移（後方12か月移動平均）】 百万円



設備投資は、下げ止まっています。

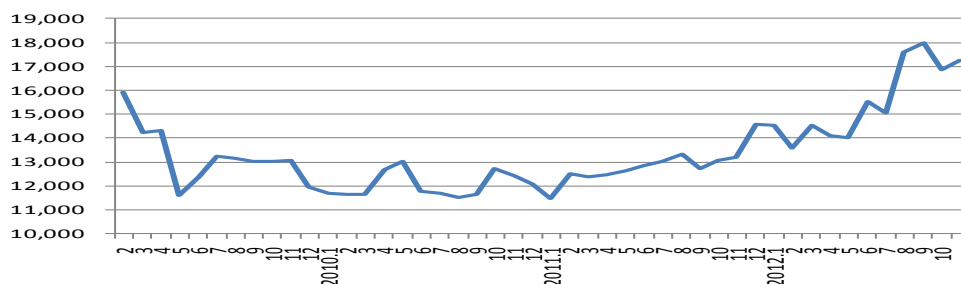
道北地域の「企業短期経済観測調査」（2012年12月調査）における2012年度の設備投資計画は9月調査比+29.9%上方修正され、増加（+14.8%）に転じました。9月調査で円高や欧州経済の減速に伴う製造業での下方修正を主因に下方修正となった後、12月調査では新規事業立ち上げ等のための投資に伴う製造業での上方修正から全体でも上方修正となりました。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】 前年比・%



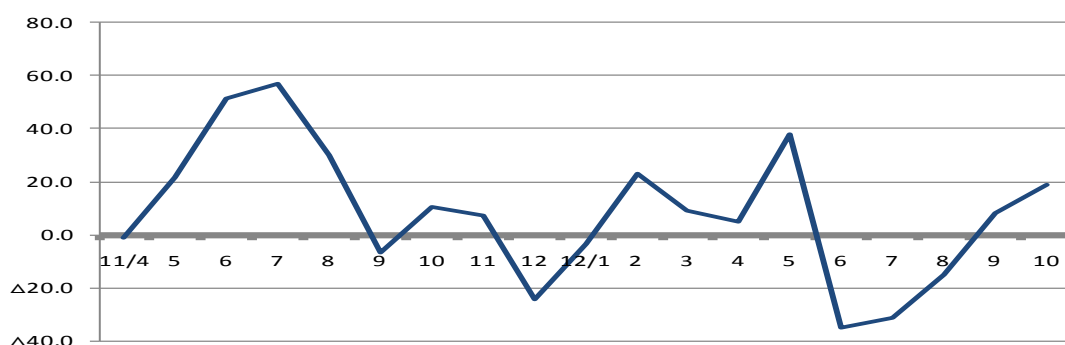
設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用）については、10月は2か月振りに増加しました。振れを均すために後方12か月移動平均でみると、下図の通り2011年以降着実に持ち直し、2009年初の水準を上回っています。

【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】 m²



住宅投資については、持ち直しの動きに一服感がみられています。10月の新設住宅着工戸数は2か月連続で増加しました（+18.9%）。6～8月に前年（住宅エコポイント終了前の駆け込み需要等から大幅に増加）の裏要因から大幅に減少した後、9月以降はそうした裏要因が剥落したことから、プラスに転化しています。年初来では△5.2%ですが、最近のプラス転化の動きが定着するかどうかについて注目しています。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】 前年比・%

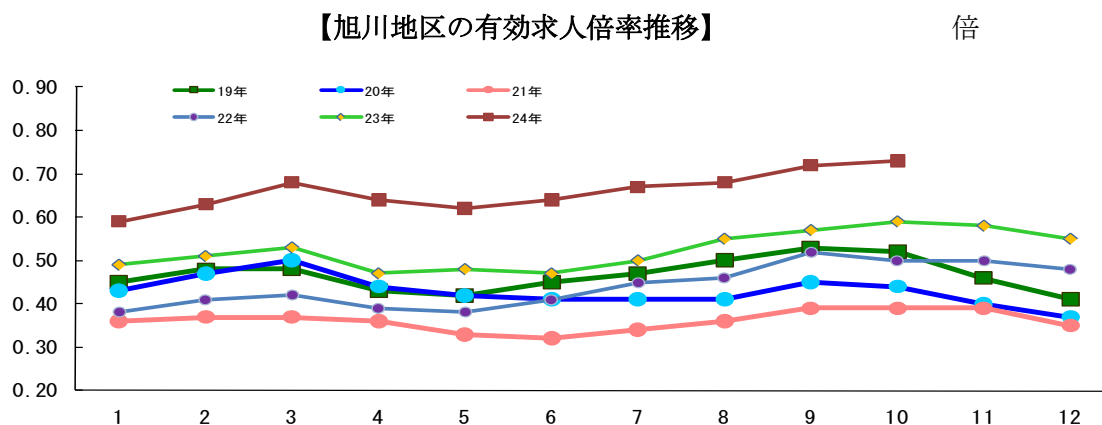


10月のオホーツク漁業（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）は、主力の秋鮭に加え、ほたて、ほっけ、かれいが減少したことから、数量（△16.8%）、金額（△13.1%）ともに減少しました。

製造業は、幾分弱めの動きとなっています。製材の生産は円高による輸入材との競合や自動車等向けこん包材需要の減少から8か月連続で減少しました。合板の生産は手間のかかる高付加価値品へのシフトが進む中、減少する月が多くなっていますが、当月は既存製品の処理のウエイトが高くなったことから増加しました。紙・パルプは、雑種紙は増加したものの、印刷用紙、情報用紙が輸入品との競合等から減少したため、全体では減少しました。電子部品関連は、新製品の作り込みの終了等から引続き減少しています（合板は9月、その他は10月計数に基づく）。

雇用情勢は、労働需給面を中心に持ち直しの動きが続いています。

労働需給は改善しています。9月の有効求人倍率は、4地区すべてで前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。10月の旭川地区における常用新規求人数は+24.1%の増加となりました。業種別には医療・福祉（+15.1%）、建設（+66.7%）、宿泊業、飲食サービス業（+59.3%）などで増加しました。このように、労働需給面では改善の動きが続いています。ただし、有効求人倍率については、建設等における道外からの求人が水準を押し上げていることや、求人・求職間の構造的なミスマッチ（たとえば10月の旭川地区の職業別有効求人倍率〈パートを除く常用〉をみると、一般事務員は0.20倍、ホームヘルパー・ケアワーカーは1.58倍）の存在から求人があっても新規雇用に結びつきにくい状況が続いていることを割り引いて解釈する必要があります。また、雇用者所得については、所得環境が厳しい状況にある（国家公務員等で給与削減、道職員の冬季賞与は減少等）ことを勘案する必要があります。



今年の後半は冷夏の後一転して長く厳しい残暑が続いたかと思うと、一気に気温が冷え込みました。その後、11月後半には吹雪に見舞われ、11月27日には当事務所管内ではありませんが、室蘭市や登別市などで暴風雪による停電が発生し、災害救助法が適用されました。これに伴い当該地域に所在する金融機関等に対し、財務省北海道財務局長と日本銀行札幌支店長とが連名で金融上の措置を適切に講ずるよう要請する（「[11月27日の暴風雪による災害に対する金融上の措置について](#)」参照）という出来事も起こりました。このように今年の後半は天候に翻弄され続けた半年でしたが、このところようやく通常の道北の冬らしい気候となってきました。大型小売店（冬ものの衣料）、スキー場、冬のイベント（あさひかわ冬まつり、層雲峡氷瀑まつり、もんべつ流氷まつり等）などにとっては今の寒さや降雪は恵みです。今の状態が続き、北海道のイベントが寒さに反比例して熱く盛り上がり、景気にも好影響を与えることを期待したいと思います。

2012年12月14日

荒木 光二郎